

奥州の方言にねうをと云、えんじまといふは、あいなめといふを愛す女と云意にて寝うをといひ、又寝所と云なるべし、又べるといへるは、東國片鄙の小兒舌のことをいふ也、四國にても吾をべると呼ぶの稀に有也、さればあいなめと云をなめるといへるこゝろにて、駿河にはべると名づくる歟、なめるとは關東にて云、畿内にてねぶると云におなじ、

〔本朝食鑑〕江海有鱗鮎魚訓阿比女奈女

釋名形略似年魚故名、稱女而非年魚之雌、年魚生河、鮎魚女生海、孕鮎亦殊矣、日本紀及萬葉集訓魚稱奈也、

集解、狀似年魚而短、色黑、鰭稍長而小、硬鱗、比年魚則細、大者鱗亦稍大、味亦比年魚則極劣、江都品川芝濱江上多采之、或夏秋間釣之、

肉氣味甘平無毒、主治未詳、然魚市老商所謂比赤魚、眼張、藻魚、則多脂而羶、故多食生熱、或曰與赤魚眼張、藻魚、氣味主治相同、

旗代魚

〔本朝食鑑〕江海有鱗旗代魚訓波多

釋名漁家所謂魚紋黑白相疊如旗之黑白分染、故龍宮有戰鬪則以此魚代旗、因號旗代也、是誕之可笑者、不足用、或作旗白亦不相當、

集解、細鱗長鰭尾無岐、色以黑爲上、白者味劣、略似藻魚、而形扁、首短、鬚亦細脆、肉美白味甘淡而佳也、以上五種魚之氣味雖相類、而以藻魚旗代爲勝、眼張次之、鮎魚女有膩味不佳也、

肉氣味甘平無毒、主治與藻魚赤魚等同、病家以無毒、好爲常食、醫亦依病而供之、

〔和漢三才圖會〕四海有鱗魚鬚白魚古世字、京俗、名義正字未詳

按旗代魚狀略似藻魚、而扁身短首纖鬚、其鱗有黑白文、肉脆白淡甘、冬春出焉、京師不賞之、唯以無毒爲佳、

金首

〔運步色葉集〕魚名金首カナガシラ

〔書言字考節用集〕五氣形鱒カナガシラ未詳、坊頭魚